【畜産】【飼料作物】の【台風】対策について
＜１０月＞

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【畜産全般】

（１）予想される被害

・畜舎や堆肥舎等の施設の倒壊や破損、大雨による浸水
・停電による自動給餌器の停止、バルククーラー等搾乳に関する設備や汚水処理システム等の機器類の停止等
・断水による家畜への給水停止
・放牧牛が土砂災害に巻きこまれる

（２）事前対策

・畜舎の点検を行い、破損箇所については事前に修繕しておく。
・防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、補強や対策を実施する。
・開放型の畜舎については雨の打ち込みを避けるためカーテン等を下ろして固定し、できるだけ床が湿らないように対策をとる。
・特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、資材・飼料（配合飼料、粗飼料、青刈り、サイレージ）等は、余裕をもって準備する。
・停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を行っておく。
・特にウインドウレス畜舎では、非常用発電機の燃料の確保と点検を行い、停電時に換気扇が停止しないように注意する。
・断水の可能性がある場合には､最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
・台風の大きさによっては、放牧牛を畜舎につれて帰る。

（３）事後対策

・浸水した畜舎は、疾病等の発生を防止するために、台風通過後速やかに消毒する。
・敷料がぬれた場合は、速やかに乾いたものと交換する
・台風通過後は、急激に気温が上昇し湿度が上がることがあるので、暑熱の影響を受けやすい肥育牛、乳牛、肥育豚及び出荷前のブロイラー等においては、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

（１）予想される被害

・飼料作物の強風雨による倒伏や折損、浸水による湿害等

（２）事前対策

・ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。
・刈取り適期の飼料作物は早めに収穫する。登熟中で水分が高い場合は貯蔵時に水分調整剤等を活用する。

（３）事後対策

・ほ場が冠水した場合は速やかに排水する。

・倒伏・折損によりドロ等の付着等があり著しく不良の場合や登熟中の飼料作物を収穫・調製する場合は乳酸菌やフスマ等の添加をする。